

米軍基地 NO! 基地撤去にむけた取り組み

三多摩労連 ニュース

第93号

三多摩地区労働組合連合協議会
立川市曙町1-10-2
TEL042(523)3300
FAX042(523)3320
E-mail:santama-rouren@ime.plala.or.jp

八・五横田すわりこみ行動
猛暑の中、四十五人が参加

六十五回目の「敗戦の日」が、三日曜だったことから、十七回目のすわりこみ行動は、この日をふまえた行動となりました。

恒例の活動交流では、原水禁世界大会参加者、通し行進者から、核兵器廃絶へのとりくみの前進が力強く報告されました。



「平和の歌声」のあと「撤去の会」から「沖縄とともに声を上げよう、横田基地もいらない、一〇・九市民集会」への参加が呼びかけられました。

「二どばどば」行動で
沖縄との連帯を示す
一〇・九市民交流集会

日米政府の「合意」に断固としてNO!をつきつけ、普天間基地の即時撤去、辺野古への移転に反対している沖縄県民のたたかいは、「行動」で連帯していくのが、十月九日の集会です。
沖縄のたたかいは現状、日

米政府の動き、マスコミの動向などをリアルに報告する琉球新報の若手の滝本匠記者の講演「沖縄からの直言」に注目が集まっています。午前中の東京の基地闘争の原点ともいえるべき「流血の記録・砂川」にも期待の音が届いています。希望者を募っての基地めぐりも計画されています。集会のあと、横田基地にむかってデモ行進を行います。こぞでの参加を強く呼びかけます。

10・9市民交流会
11:00~ 映画「流血の記録 砂川」
13:00~ 集会
15:30~ デモ 福生市民会館
※基地巡りは10時に福生市民会館ロビー集合 要申し込み
FAX0428-23-8494
西多摩労組連9/30締め切り

くらしを・福祉を・子育てを壊す
「地域主権改革」一括法案
10月22日に三多摩学習交流会

「地域主権改革」一括法案は、4月に参議院を通り、衆議院にまわされています。41本もの法律をいっしょに変えて、最低生活基準(ナショナルミニマム)を保障するために国がやっている仕事を投げだし、国が決めている基準をなくしてしまおうとするものです。保育所の設備や運営の最低基準も自治体まかせになり、ハローワークなど国の出先機関も廃止されたり、地方任せにされたり、子どもたちや私たちのくらしや仕事への影響は数えきれません。しかし、「地域主権改革」一括法案の危険性は、まだまだみんなに知られていません。三多摩労連・三多摩春闘共闘・三多摩法律事務所などは、共同して10月22日に専修大学教授の白藤博行さんを講師に招いて学習交流会を開きます。これを機会に、みんなで学習を深め、分野ごとの闘いを相互に連携し、地域主権改革にストップをかける運動をおこしたいと思います。

10月22日(金) 19:00~
三多摩共同労働会館

おいしく安全な給食を！
「民間委託」を許さないたたかい

小平市の小学校給食は、自校直営方式により安全でおいしい給食が作られています。ところが昨年、市は「小学校の給食のあり方を検討する委員会」を設置し、このなかで市教育委員会は給食調理部門の民間委託を提案してきました。

これに対して地区労、市職員組合、教職員組合、新婦人中心に市民にもよびかけを行い「小学校給食の民間委託に反対し、自校直営方式を守る小平連絡会」を結成し、「営利目的の民間企業では、おいしくて安全な給食は守れない」「市の栄養士が受託会社の調理員に直接指導すると偽装請負となるなどの問題がある」とし運動を進めています。

また会では五月に市長へ約五千筆の署名を提出し、欠員が生じている正規給食調理員及び栄養士の補充を行なうよう求めました。

今日、財政難を理由に各地で「民間委託」という各種公共サービスの切り捨てが強行されようとしています。ここを労働組合が先頭になり、運動を強めていく必要があります。

都教育庁 坂本通子さん 不払い超勤の支払いを求める裁判

控訴審でも勝利判決 都側上告断念し確定!

働いた時間どおりに超勤手当を払わない都教育庁を訴えていた坂本さんの勝利が確定しました。

「本件控訴を棄却する」七月二十八日午後一時十五分、東京高裁八〇八号法廷に裁判長の声が響きました。坂本さんは、高裁でも勝利判決を勝ち取りました。三月二十五日に東京地裁は事実認定においても法理論においても坂本さんの

主張を認め、超勤手当を支払うよう命ずる判決を言い渡しましたが、東京都はこれを受け入れず控訴していました。東京高裁には、団体署名二百六十三団体、個人署名一万六八九〇筆が提出され大きな力となりました。

最高裁判所への上告期限は八月十一日でしたが、被告東京都は最高裁への上告を断念し高裁の勝利判決が確定しました。



勝利判決に沸く支援者と坂本さん（前列左から2人目）

た。これは坂本さんの裁判とそれを支えた職場、地域の運動の成果です。坂本さんは立川労連に参加している自治労連都庁職教育庁支部三多摩分会の組合員で、立川労連も支援を続けてきました。都教育庁の超勤予算は、平成二十一年度に約一億円、二十二年度に約五千万円増額され、すでにほとんどの職場でほぼ全額が支払われるようになってきました。この成果は、公務職場から不払い残業をなくすたたかいに大きな意義を持つものです。

可能性を汲みつくし 企業の存続を勝ちとつた

沖電気八王子工場は、一九六〇年、八王子市が多額の資金を投入して誘致した企業で、市民の雇用、地域経済の発展に大きな役割を果たしてきました。

この沖電気が、二〇〇八年十月、半導体部門をOKIセミコンダクタとして分社化、同時に京都のローム社が、株式の九十五%を買収しました。

OKIセミコンダクタの社長は、「労働者の労働条件は変わることなく承継される」と言いましたが、その年の十二月には、労働条件の改善、人減らし合理化が強行され、二〇〇九年二月には、労働者の半数を解雇、残りの約八割をローム各工場、事業所に配置転換し、OKIセミコンダクタ本体（八王子工場）の解体を意味する「構造改革」が提案されました。



OKIセミ連帯する会 (八王子労連)

この事態の中で、二〇〇九年四月二十日、OKIセミ労働者と連帯して学者・弁護士・労働組合、市民団体等広範な人々が結集し、「OKIセミコンダクタの仲間と連帯する会」を結成しました。同年六月には、京都総評の支援を受け、株主総会での宣伝行動を成功させ、ローム本社へ二つの要求で申し入れを行いました。1. 家族の生活が息づく八王子で働かせて！ 2. 京都と同じように八王子の経済を考えて！と。

二〇〇九年七月には「誘致企業沖電気の動向と地域経済を考える」シンポを一〇〇名を超す参加で開催。市への働きかけを強める中で、シンポには副市長および産業振興部長も参加。このシンポの成功がその後の局面を変えました。シンポ成功を背景に、OKIセミ・ローム両社長に、各三千通のハガキを届け、粘り強く折衝し、ローム社の労務担当総務部長と「連帯する会」代表との面談を実現させました。この間、OKIセミコンダクタで頑張る二人の仲間が、定年後の再雇用を勝ちとりました。これらの運動の中で、今年の株主総会に参加した「連帯する会」会員の質問に、ロームの新社長が「八王子事業所のこれ以上の縮小はない」旨の回答をするなど、大きな成果を勝ちとりました。



私たちのこと」「子どもたちのこと」「四七教育基本法」を葬り去れ」「詰め込み教育復活のなかで」「習熟度別授業」「すべての教科で道徳を教えよ」「上意下達の学校」「まずは、つながり語り合うことから」の八話構成である▼どこから読み始めてもわかるパンフの第一話では・・・。「文科省が「三割の子がわかれがいい」「わからないのも個性」と『新学力観』を叫びたて、指導主事がある。現行の学習指導要領が実施された時期から、子供たちの学習や生活に大きなマイナスの変化が見え始めた▼「東京の養護の先生が小・中学生に行ったアンケート調査では『最近のあなたの心と体のようすについてあてはまるものは?』の問いに、小・中学生とも第一位は「眠い」(小・五十三%、中・七十六%)第二位は「横になって休みたい」(小・三十四%、中・四十九%)。元氣盛りの子どもたちが、まるで仕事に疲れきった大人のように訴えています▼このように状態の中で、明日を担う子どもたちが学校生活を送っている。勉強についてこれない子どもたち、疲れきっている子どもたちのこと、みんな真剣に考えてみようではないか。

都教組西多摩支部は、この「教育パンフ」はなしあいのたねを作成した▼「私